



矢野中通信

9月号 No. 2

平成22年度全国学力・学習状況調査の結果について、お知らせします

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査の実施日 平成22年4月20日（火）

3 調査方式

抽出調査・・・文部科学省が調査対象として抽出した学校において、調査を実施する。

希望利用による調査・・・文部科学省より問題等の提供を受け、各学校において、調査を実施する。

4 調査実施学校数（公立学校）等

区 分	抽出調査実施校数（校）		調査実施者数（人）		
	国	県	国	県	学校
小学校第6学年	5,372	137	264,193	6,276	—
中学校第3学年	4,347	121	421,281	11,297	276

5 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語，算数・数学）

主として知識に関する問題【A問題】

- ◇ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ◇ 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など

主として活用に関する問題【B問題】

- ◇ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- ◇ 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査

- ◇ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

学校に対する調査

- ◇ 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

6 各教科の平均正答率

【小学校】

国語						算数					
A問題			B問題			A問題			B問題		
国	県	学校	国	県	学校	国	県	学校	国	県	学校
83.3	85.3	—	77.8	81.1	—	74.2	77.3	—	49.3	51.9	—

【中学校】

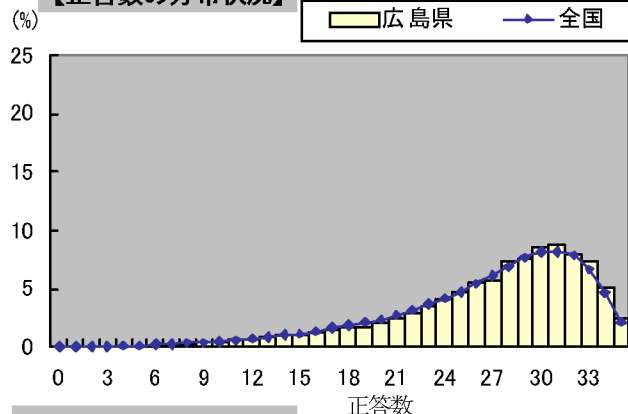
国語						数学					
A問題			B問題			A問題			B問題		
国	県	学校	国	県	学校	国	県	学校	国	県	学校
75.1	76.0	77.2	65.3	65.7	64.0	64.6	64.9	64.7	43.3	43.3	40.3

7 各教科の調査結果の概要

【中学校国語】

国語 A

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

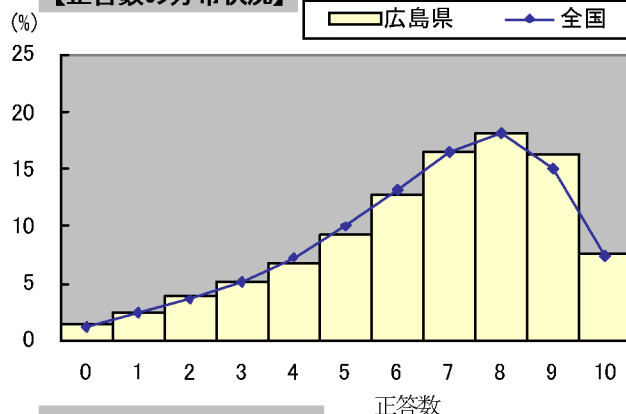
領域	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
話すこと・聞くこと	74.2	74.0	75.8
書くこと	71.1	73.6	75.2
読むこと	76.6	77.0	78.0
言語事項	75.8	76.7	77.6

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
選択式	71.2	71.8	72.9
短答式	81.0	82.4	83.6
記述式	—	—	—

国語 B

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
話すこと・聞くこと	45.6	47.7	49.7
書くこと	60.2	61.0	60.0
読むこと	67.5	67.7	65.6
言語事項	—	—	—

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
選択式	75.5	75.7	74.5
短答式	64.0	64.2	61.4
記述式	53.0	54.0	52.7

定着状況

○国語 A では、概ね基礎的な学力は身についている。特に「書くこと」においては、文章から必要な情報を読み取って簡潔にまとめる力が身についている。

○国語 B では、「読むこと」の領域で平均正答率を全国、県ともに下回った。字数指定で書き抜く問いでは正答が多いが、文脈上から筆者の考えを読み取る選択記号問題では、類似した答えに惑わされていた。

課題

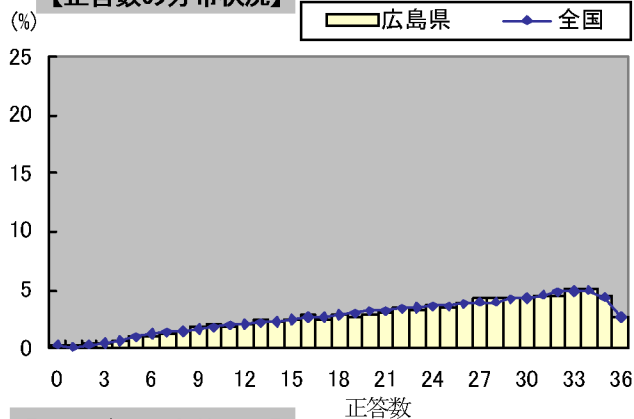
○修飾・被修飾の関係や文脈から接続詞をあてはめるなどの文のきまりが理解できていない。

○文中で使われている言葉を他の言葉に書き直すという問いができていないことから、とにかく多くの本を読み、さまざまな表現を知り、自分の語彙を増やす必要がある。

【中学校数学】

数学A

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

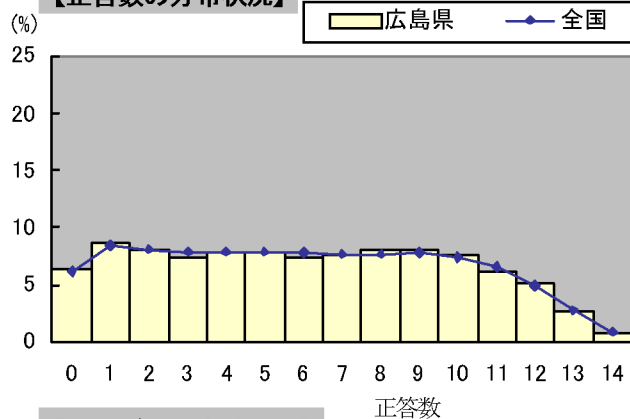
領域	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
数と式	75.2	75.5	74.3
図形	64.3	64.7	65.5
数量関係	54.3	54.4	50.0

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
選択式	61.9	62.0	61.6
短答式	67.3	67.7	67.9
記述式	—	—	—

数学B

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
数と式	43.2	43.6	42.0
図形	40.2	40.7	35.8
数量関係	45.5	44.9	42.2

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
選択式	51.9	50.6	46.5
短答式	53.7	54.6	54.3
記述式	33.4	33.2	28.6

定着状況

○数学A（基礎基本）では、数と式の領域と図形の領域については基本的な学力は定着していると思われる。数量関係は、基礎的な知識や理解が不足しており、正答率が低かった。

○数学B（活用）では、図形の領域での応用力に課題がある。また全領域で記述式の問題の正答率が低かった。

課題

○数と式については、引き続き計算練習を繰り返していき、定着を目指す。図形と数量の領域では基礎の復習をしっかりとする必要がある。

○図形・数量関係の分野において基本の復習を入れながら、授業をすすめていく必要がある。いろいろな問題を提示し、記述式の問題にも対応できる力をつける必要がある。

全国学力・学習状況調査の結果に基づく指導方法等の改善計画

矢野中学校

全国学力・学習状況調査 正答率		〔A：主として知識〕 〔B：主として活用〕		
	国語A	国語B	数学A	数学B
学 校 (%)	77.2	64.0	64.7	40.3
広島県 (%)	76.0	65.7	64.9	43.3

国 語	主な課題	要 因
	①修飾・被修飾の関係や文脈から接続詞をあてはめるなど文のきまりが理解できていない。 ②文中の言葉を他の言葉に書き直すことや生活の中で用いている言葉の意味が理解できていない。	○学習内容の習熟のための反復練習が不足していると思われる。 ○言葉と意味を関連づけて覚えることができていない。
	＜課題解決に向けた国語科における具体的実践＞	
	①授業の中で機会を捉えて、基礎・基本に触れてゆくとともに、ドリル学習による反復練習を実施する。 ②言葉が持つ意味を理解するために、自らの体験を思い出して述べたり、他者の意見を聞いたりといった交流の場を設定する。 ③授業で書いた文章を相互評価し合うグループ学習を取り入れる。	

数 学	主な課題	要 因
	①数と式の領域において、基礎的な学力が十分に身に付いていない生徒がいる。 ②数量（関数）の領域で、応用問題を解くために必要な基礎的な知識が身に付いてない生徒がいる。	○数と式の領域については反復練習が不足している。 ○数量と図形の領域では、基礎的な知識が定着していない。
	＜課題解決に向けた数学科における具体的実践＞	
	①基礎力の十分な定着をはかるため、基本問題の反復練習を行う。 ②文章問題への対応で、自ら考えたり発表したりする機会を多くしていく。 ③授業では、基本の定着から発展問題へと多様な問題を提示していく。	

学力向上へ向けた全校的な取組（課題解決に向けた具体的実践）

- ①生徒同士の関わりをもたせた活動を授業の中に取り込んでいく。
- ②校内授業研修会を行い、指導力の向上を目指す。
- ③授業規律の徹底に取り組む。